



AA日本ニューズレター

No.193

■ 第25回ワールドサービスミーティング(WSM)に参加して

WSM 後期(2nd)評議員 森田

2018年10月、南アフリカ共和国のダーバンという町で開催されたワールドサービスミーティング(以下 WSM と略)に、WSM 前期評議員の星さんと一緒に参加してきました。紙面を借りてその報告をしたいと思います。

2年ごとの WSM ですが、前回のニューヨークではアメリカカナダの常任理事会オブザーバー参加や GSO(本部オフィス)訪問もあったので日程は9日間でしたが、今回は純粋に WSM の会議だけでしたので短く5日間でした。とはいえ日本からの直行便がなく中東のドバイ乗継で、ドバイまで 11 時間、ドバイから南アフリカまで 11 時間、乗継含めて片道 24 時間を超える旅程でしたので出発から帰宅まで1週間以上を費やしました。

南アフリカのキングシャカ空港に到着してみたら預けた通訳機器の紛失やスーツケースの破損というトラブルから始まりましたが、現地歓迎委員会の委員長が車で出迎えてくれました。委員長は前回のニューヨークのときに WSM 評議員だった AA メンバーです。お互いに覚えていたので、2年ぶりの再会に喜び合いました。

到着翌日よりホテルの会議室で WSM が始まりました。参加国 45、評議員 72 名です。これにプラスしてアメリカカナダ GSO のスタッフや、スペイン語と英語の通訳者、日本語の通訳者も加わり、80 人近いメンバーでの大会議でした。

各国からの AA の現状報告はカンテリハイライトと呼ばれています。日本からは前期の星さんが英語で口頭発表しました。



内容は日本の AA が始まってからサービス機構を作りもうすぐ 45 周年を迎えること、メンバーシップサーバイの実施でわかる日本のグループや男女比などの現状、そしてまだまだ一般に AA が知られていなく広報活動を推進しようとしていることなどです。

他の国からのレポートでは新しいメディアを広報や財務に利用している国が多いことに驚かされました。電子書籍、インターネット献金、動画サイトや SNS、携帯アプリによる地図にリンクしたリアルタイムミーティング案内、こういったものをその国の GSO や常任理事会が公式に認めて非常に積極的に活用しています。日本では収入減や経費増そして伝統が破られることなどを恐れて二の足を踏ん

でいるものばかりです。しかしながら現実に導入している国々では、そのような恐れは簡単に乗り越えているように見えました。

また国と国とのスポンサーシップが当たり前のように行われています。アメリカカナダがメキシコやブラジルに種をまき、メキシコはアルゼンチン・チリ・キューバ・ドミニカ・ベネズエラなどのスポンサーを一手に手掛けています。ドイツがボリビアを手助けするなど遠く離れた国でもスポンサーシップが可能です。金銭援助ももちろんありますが、その国の評議会や常任理事会に招待して具体的なサービス会議や機構を生で見てもらうといった援助がよく行われているようです。日本が海外ゲストとしてメンバーを評議会に呼んだり呼ばれたりして以来 10 年以上が経ち、それどころか日本は国と国とのスポンサーシップをすでに風化させてしまいつつあります。

いろんな背景を持ったメンバーが AA グループにつながるかどうかという分かち合いもありました。具体的には女性、若者、セクシュアルマイノリティ、シニア、職業別、オールドタイマーなどです。日本では過去より特別ミーティングはダブルクロズド、つまり限定された人々だけでミーティングを行い、グループとして独立していない方法が主流ですが、海外ではそうした特別ミーティングも AA メンバーということではクロズドですが、背景での限定はせずにほとんどオープンで行っているようでした。ですから女性ミーティングに男性が来てしまったときも扉を閉ざすわけではなく歓迎するようです。ただしミーティングの趣旨は説明し、次回からは別の会場をお勧めするのだとか。ほかにもオールドタイマーの特別ミーティングや、弁護士や介護職の特別ミーティングもあり、特有の悩みや苦しみを分かち合うのだそうです。もちろんそれらも扉は閉ざさずオープンでの分かち合いとのことでした。

国と国との分かち合いはとても刺激的で、これまで当たり前だと思っていたことがそうでないことがわかるチャンスです。自分の役割はこれらの情報を国に持ち帰ることが主眼でしたが、2017年にモンゴルで行われたアジアオセアニアサービスミーティング(以下 AOSM

と略)の概要を英語で報告することも予定されていました。時間内に発表を終えるための練習を重ねて本番に臨みましたので、無事役割を果たすことができました。原稿作成にあたり国際協力委員会のメンバーの助けや、ニュージーランド評議員の助言も受け、協力関係を育てることができたと思います。そして今回のWSMのレポートを次回香港でのAOSMで発表する役割も負っていますので、まだまだ気を抜けません。



たくさんの分かち合いとプレゼンテーションがありました。5日間の日程はあっという間に過ぎてしまいました。今回はA類(ノンアルコール)の評議員が

3名いましたし、ソプラエティ40年を超えるB類(アルコール)の評議員も3名いました。デンマークの評議員が20代でAAにつながり、仕事や勉強をやり直しながら現在60歳を過ぎてサービス活動を続けているという話を個人的に聞き、自分はまだまだこれからですが経験が重なるように見え、見本を示して導いてくれる感覚を味わいました。またアイスランドやスロバキア、チェコの評議員はとて若く活動的で、ソプラエティ10年にも満たないのにこのような国際的な場に出てきてもおおじもせず生き生きと活動しているのを見て、我々も現状に満足しているのではなく、できるサービスに手を付けていく必要があると勇気づけられました。

WSMの詳しい話はまた地域の集会などのイベントの場で順次行わせていただきます。地区やグループなどでもどうぞお呼びください。出かけていきますのでお声かけください。よろしく願いいたします。

■ 裁判の証人としての出廷

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

B類常任理事 夏井

2018年5月中旬に、千葉マリン法律事務所の石川弁護士からJSOに連絡が入った。石川弁護士が担当する被告が酒を飲み起こした事件で、当日のことは全く覚えていないと証言したが、裁判長や検事は「嘘だろう」と疑っているため、裁判の証言台に立ちAAの説明と本人の体験談を話していただきたいとの依頼だった。

6月下旬、JSOにおいて石川弁護士と村川理事が面談し、AAの説明などをさせていただくと共に、詳しい内容を伺った。この内容を7月の常任理事会に諮ったところ、私、夏井が対応することとなり、8月中旬には私と新井所長で弁護士事務所に伺い当日の打ち合わせ、その後、本人と面会をした。

9月上旬、裁判の当日は村川理事、新井所長と私の3人で千葉裁判所に向かった。証言台では、石川弁護士の質問で始まり、その答えとして自分の経験とAAのプログラムの力と希望を説明した。休憩を挟み検事、裁判員、裁判官からの多くの質問があり、丁寧に回答した。始まりから、おおよそ3時間が経過していた。

石川弁護士によると「こんなにも質問がある裁判は珍しい」とのこと。私自身、まだAAを知らない人や、まだ苦しんでいる仲間にもAAのプログラムに興味を持っていただければと感じた時間となりました。

今回は石川弁護士ご自身が近くのAAミーティング会場に足を運ばれたことがきっかけとなりました。感謝申し上げます。次号では、石川弁護士からご寄稿をいただく予定になっています。

■ 各地域より

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

JSOから各地域の刑務所や保護観察所等、矯正関係施設268ヶ所にBOX-916をお送りしています。

その詳細は、北海道地域は24ヶ所、東北地域は21ヶ所、関東甲信越地域は75ヶ所、中部北陸地域は36ヶ所、関西地域は32ヶ所、中四国地域は37ヶ所、九州沖縄地域は43ヶ所です。

各地域から矯正関係施設への広報やメッセージについて、ご投稿いただくよう計画し、今号は北海道、東北、関東甲信越、九州沖縄地域からご投稿いただきました。ありがとうございます。191号から始まり、今号で全ての地域からのご投稿を掲載することができました。

補足：AAのメッセージを運ぶ(メッセージ活動)とは：私たちAAのメンバーは、今も苦しんでいるアルコールの人たちに、多くのアルコールがAAのプログラムにより心身とも健康な生活の回復を果たしているということ、是非とも伝えたいと思っています。私たちは、そのことを「AAのメッセージを運ぶ」(メッセージ活動)と呼んで、私たち自身の回復にとっても必要な、とても大切なこととして位置付けています。

常任理事会発行『AA私たちにできること』より。

北海道地域より

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

矯正担当委員 はるか

北海道地域には矯正委員会がなく、地域集会で矯正担当の地域委員を配置することが決議されました。私はそれを受けて矯正担当委員をやらせていただいています。

北海道地域の矯正メッセージ活動は始まったばかりで歴史が浅いと思っていましたが、実は先輩たちが地道に広報活動をしてきていました。何年も前から刑務所や関係機関に手渡しで BOX-916 をお渡ししていたそうです。門前払いは当たり前、それでも地道に活動をしてきていました。先輩たちは「郵送は最終手段。足を使って広報しなさい」と伝えてくれました。私も、新しい仲間伝えていきます。伝えるからには実際に行動していきます。

刑務所からのメッセージ依頼をいただけるようになったのは、2016年9月に常任理事会主催の矯正フォーラムを開催して以来です。現在のメッセージ先は札幌刑務所、月形刑務所、釧路刑務所、旭川刑務所の4か所です。今年は9回のメッセージ活動をさせていただきました。網走刑務所、函館少年刑務所にはお電話にてご挨拶をさせていただきました。その際に BOX-916 を読んでいただけるよう広報したところ、すでに担当者間で読まれており、内容についてのお話もいただけてとても嬉しく思いました。問い合わせや、関係者のオープンミーティングへの参加、関係者のオフィス来所もあり、今後のメッセージ活動に繋がるよう対応しています。

メッセージ登録は22名。メッセージの手配は非常に円滑で、メッセージに依頼をすると平日昼間のメッセージであるにも関わらず、すぐに「休みを取って行かせていただきます」と言ってくれる仲間ばかりです。札幌から月形、札幌から旭川へもメッセージは喜んで向かってくれます。釧路刑務所にも地元や道東地方の仲間が行ってくれています。メッセージの意欲が矯正メッセージを盛り上げているのだと思います。北海道は広いので、今後地方からのメッセージ依頼があった時に北海道地域が一体性をもって対応できる地域でありたいです。

今年は札幌保護観察所の協力を得て、11月に札幌弁護士会館にて弁護士への広報を行いました。地域委員会で「AA 広報資料」を50部購入し、AAの説明とモデルミーティングを行いました。

矯正委員をやらせていただくにあたり、AAの伝統「優先させなければならぬのは、全体の福利である」を常に念頭に置いて活動することが大切だと痛感しています。矯正委員は、刑務官や関係者の方に「AAに対するお褒めの言葉」をいただくことが多く、天狗になってしまうことがありました。刑務官や関係者との信頼関係を大切にしつつ、自分はアマチュアであることを忘れてはならないと思っています。矯正委員としての活動は些細なことでも地域委員会で共有して、抱え込まないことも大切だと思います。

かつて生きることが辛く、苦しく、この世こそ地獄だと思って酒を飲んでいました。どうやって生きればいいのか、まったくわかりませんでした。AAに出会って、酒のない新しい生き方を教えていただきました。

今苦しんでいる仲間にAAのメッセージが届きますように。

東北地域より

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

矯正保護施設委員会 小山

東北地域の矯正保護施設へのメッセージの状況は、山形刑務所に2015年より月1回定期的にメッセージを運んでいます。今年度は、青森刑務所、宮城刑務所に訪問し、アルコール依存回復プログラム授業に参加させていただきました。

山形刑務所ではミーティング形式のメッセージが定着していて、その日、その時間になると、刑務所側が手作りのAA看板を準備し、表示してくれます。当然、緊張感があります。

その中で、参加する受刑者も徐々に雰囲気慣れていき、自分の話をするようになっていきます。2018年7月に民間協力者表彰対象とされ、感謝状を頂戴いたしました。施設職員やたくさんの方々のAAへの協力と理解があつてのものと思いが引き締まる思いです。

青森、宮城刑務所どちらも、アルコール依存回復プログラムの授業一コマすべてをAAに任せてもらい、ミーティング形式のメッセージを行うことができました。施設職員もミーティングの輪の中に入り、雰囲気作りをしてくださり、参加した受刑者は自分の話をしてくれました。

東北でメッセージを運ぶ際は、二人で行くようにしています。遠い場所もありますが、継続しようという思いを持って運んでいます。メッセージは、自分自身の過去どうであつて、何が起つて、今どうなっているのかの経験を正直に話すようにしています。そうすることで少しでも苦しんでいるアルコールの手助けができ、また、AAを理解してもらいたいという意欲と責任を持って活動しています。

矯正保護施設にメッセージを運ぶことは、「飲まないで生きる」という強い力をもらえると感じます。自分自身、問題飲酒により、警察のお世話になり、仕事や家族を失うという過去があります。その自分が、矯正保護施設にメッセージを運び、その時間を終えるとき、「今日一日、飲まないで生きていこう」という気持ちにさせてもらえます。

東北では、毎月、矯正保護関係施設24カ所に『東北見聞録』という東北地域のメンバーの話や東北全域のミーティングリストが掲載されている冊子を送っています。送るだけでなく、仙台更生保護委員会、仙台保護観察所、青葉女子学園には訪問もしています。顔を合わせ、何気ない会話をするなかで関係を築いている段階です。山形では、そのような活動を長く続けていて、関係を築いています。

今度の課題として、矯正委員の減少、メッセージの確保があります。平日の訪問という条件の難しさもあります。その課題を前に、2018年秋、メンバーみんなに向けて、「東北矯正施設メッセージの集い」というイベントを山形市で開催しました。関東からもメンバーに来て、話をしてもらい、多くのメンバーが参加してくれました。うれしいことに、関係者の方々も参加してくださいました。意義深いイベントだったと感じています。課題解決に向け、メンバーみんなの力を借りて、今後の展開を考え、行動していきたいと思っています。

関東甲信越地域より

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

矯正更生施設委員会 エリツイン

関東甲信越地域委員会(以下、地域委員会)の矯正更生施設委員会(以下、矯正委員会)について紹介します。地域委員会は1県1地区の県や、数多くの地区をもつ東京都など、合せて24地区が集まり開かれています。地域委員会には、議長団、メッセージ、広報、ラウンドアップなど、当委員会を含め9つのサービス委員会があります。サービス委員会は毎月の第4週の日曜日、午後の地域委員会に先立ち午前10時から委員会毎に開いています。

矯正委員会には地区正副委員長や刑務所等の窓口、メッセージャー、そして地区の矯正委員が集います。毎月12～6名の仲間が出席しています。地区で矯正委員をもつ地区は少ないため、他委員会に比べると人数が少なめです。

矯正委員会の活動として仲間向けにワークショップや、3委員会合同フォーラム(メッセージ、広報、矯正)、そして春季・秋季のラウンドアップでのフォーラム、行政に携わる関係者を主対象としたパブリックフォーラムがあります。3委員会合同フォーラムは他2委員会の力を借りた仲間への周知や、3委員会の相互理解を深めるため、今年より相乗りさせていただきました。

関係者向けパブリックフォーラムは隔年で行っていましたが、行政に携わる関係者とのつながりを深める大切さや必要性を痛感し、昨年より毎年開催しています。その甲斐あって徐々に周知されつつあると思われませんが、仲間への周知不足や関係者への広報不足など課題が山積みです。言い換えれば、矯正委員会は、まだまだ”伸びしろ”があるということだと思います。

矯正委員会のメッセージ活動先は現在、関東甲信越地域の16の刑務所中で15ヶ所、34の更生保護施設中で9ヶ所、13の医療観察法病棟中で4ヶ所、計28ヶ所あります。毎月、定期的に6ヶ所、多い月では11ヶ所に運んでいます。施設近くの仲間の協力が手薄な場合は、近県地区から手助けを差し伸べています。

しかし、未届け施設は約40ヶ所あり、関係者の中には「依存症は普通の人以上の酒好きや大酒のみ」と理解されている方もおられるようです。もう暫くの時間と努力が必要と感じています。

とはいえ、アルコール健康障害対策基本法の施行後、AAを社会資源としてご理解くださり、協力の必要性や大切さを機会ある毎にお話くださることもあります。大変に嬉しく、ありがたく思います。

参加して下さった関係者の皆さまにはミーティングハンドブックをお渡しし、AAの序文やビッグブック第三章などの朗読からご理解の一助とさせていただきます。場合によってはモデルミーティングを取り入れ、”百聞は一見に如かず”を実践、好評と共感を得ています。

今後もフォーラムや広報などに力を注ぎ、一石二石三石・・・とメッセージを投じたい、”私の責任”を歩んでいきたいと思えます。

九州沖縄地域より

* - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - * - + - *

矯正保護施設委員会 一貫

前号の沖縄地区に続き報告をさせていただきます。

福岡地区:福岡刑務所では6か月(1クール)12単元のうち、1単元でAAの説明と体験発表をさせていただきます。他にも、福岡保護観察所の再発防止プログラムや観察官様や保護司会様の研修会にも参加させていただきます。また、北九州自立更生促進センターでは毎月1回、入居者とミーティングを行っています。不定期ですが、梅香寮からメッセージ依頼があり、その都度伺っています。

佐賀地区:今年の10月12日にアバンセ(佐賀県立男女共同参画センター)にて「九州・沖縄地域 矯正・保護施設フォーラム」を開催しました。これに先立ち、麓刑務所、佐賀少年刑務所、佐賀保護観察所にAAの説明とフォーラムのご案内に伺いました。また 麓刑務所へは、不定期ではありますが 教育プログラムにも参加しています。

長崎地区:佐世保白雲には毎月第3火曜日と毎月第1、4土曜日、メッセージミーティングに伺っています。

熊本地区、大分地区、宮崎地区:AA主催フォーラムのチラシ等を持参しご挨拶に伺っています。大分刑務所にはメッセージミーティングの開催をお願いしています。また、宮崎刑務所で行われている刑務所内プログラムに月2回参加しています。

鹿児島地区:草牟田寮には毎週木曜日、メッセージミーティングに伺っており、保護観察所や鹿児島刑務所にも開催をお願いしています。今回、鹿児島刑務所から連絡があり、近日、AAの説明等に伺うことになりました！ありがとうございます。

全体的には機会ある度にBOX-916やフォーラムのチラシ等を持参し、ご挨拶に伺うようにしておりますので、九州沖縄地域だけでなく、全国の関係者の皆さま、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休